

# 時間と空間を分け合い、人や地域とつながる生活 都心に近い別天地・白浜から シンプルで豊かな暮らしの提案

廃校を活用し、ノスタルジーと豊かな自然で人々を引きつける「シラハマ校舎」。運営するのは、白浜を愛する夫婦と元氣いっぱいの子の3人家族。そこは、持続可能なコミュニティに最も近い場所だった。



## 多田 朋和氏 Tomokazu Tada

合同会社ウッド代表。1977年生まれ、香川県高松市出身。千葉工業大学を卒業後、内装業、不動産業を経て、2010年シラハマアパートメントを開業(2018年閉鎖)。さらに2016年にシラハマ校舎を開業し、経済産業省による「地域未来牽引企業」に選定される。

## 多田佳世子氏 Kayoko Tada

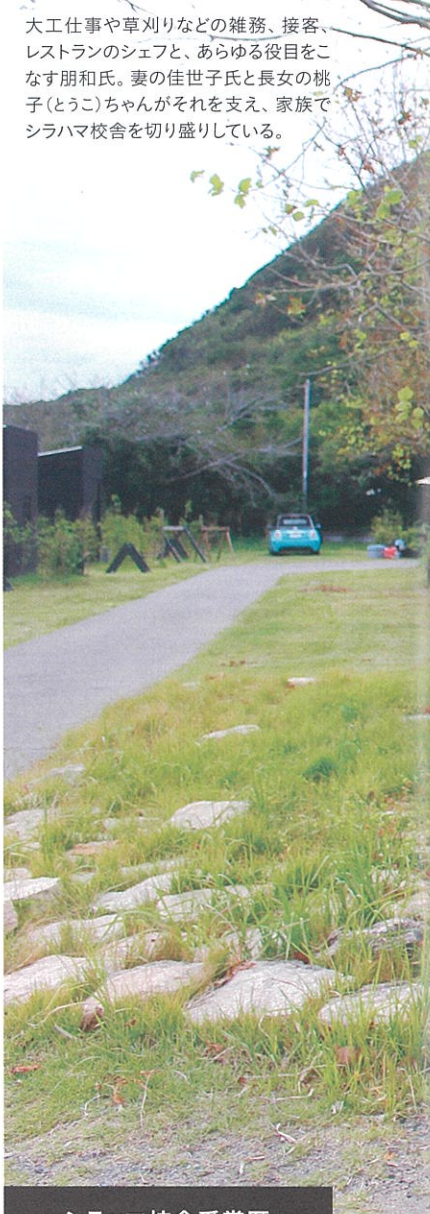
白浜社中代表。1976年生まれ、千葉県南房総市(旧安房郡)白浜町出身。津田塾大学を卒業後、外資系金融会社でオンライントレード関連業務等に従事。2014年白浜町にUターン、2017年コワーキングスペース「AWASELVES」(アワセルフズ)の運営を開始。

佳世子氏が書き手となり、シラハマ校舎の暮らしをWEBで連載中。「ローカルニッポン」<https://localnippon.muji.com/>

## 白浜の遊休資産を生き返らせる セルフリノベーション

東京都心部から車で2時間ほどの千葉県最南端、南房総市白浜町。館山から続く房総フラワervライン沿いにある「シラハマ校舎」は、廃校となった旧長尾幼稚園・小学校をリノベーションした複合施設だ。築70年近くの木造平屋の建物には、シェアオフィス、宿泊者用ゲストルーム、レストランが設けられている。施設を管理・運営するのは、合同会社ウッドの代表・多田朋和氏とそのご家族。妻の佳世子氏は地元出身で、旧長尾幼稚園・小学校の卒業生。施設内のシェアオフィスを運営する白浜社中の代表を務めている。

朋和氏が白浜に移り住んだのは今から10年前。千葉県北西部の大学を卒業後、内装関係の企業に就職し、店舗開発、図面描き、営業職などを経験した。その後、香川県高松市で実家の不動産業を手伝っていたが、「不動産、建築、アートが融合したものをつくりたい」との思いを胸に、再び千葉へ。理想の物件を探る中、白浜で4階建ての廃墟ビルに巡り合ったのが移住のきっかけだ。そのビルを自らの手で一年ほどかけてコソコソと補修・改装して始めたのが、シラハマ校舎の前身となる「シラハマアパートメント」だ。佳世子氏との出会いも、このアパートメントでのことだという。



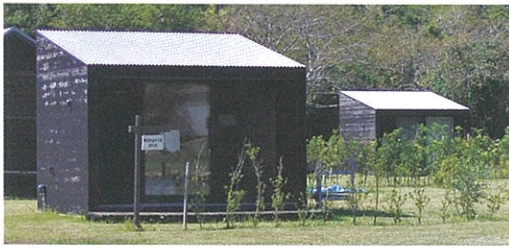
### シラハマ校舎受賞歴

- 2017年度 グッドデザイン賞
- 2018年度 第25回 千葉県建築文化賞優秀賞
- 2019年度 都市活用モデル大賞 都市みらい推進機構理事長賞

大工仕事や草刈りなどの雑務、接客、レストランのシェフと、あらゆる役目をこなす朋和氏。妻の佳世子氏と長女の桃子(とうこ)ちゃんがそれを支え、家族でシラハマ校舎を切り盛りしている。



左手に太平洋、右手に山を望む自然豊かなシラハマ校舎全景。校舎前の校庭だった場所には「無印良品の小屋」が点在する。



シラハマ校舎自慢の自家製パンを添えた朝食はボリューム満点。



白浜暮らしを体感できる小屋は、18棟中16棟が成約済み。(2019年11月現在)



宿泊者用ゲストルームは2部屋。華やかなハリウッドミラーが特徴的な明るい雰囲気。ルームR(上)、アンティークのプレジデントデスクが目玉の黒が基調のルームL(下)。

## 「無印良品の小屋」との出会い

2010年から2018年春まで営業したシラハマアパートメントは、シェアハウス、ゲストハウス、カフェが一つの建物に入る複合型施設で、事業内容はシラハマ校舎とほぼ同じだ。現在、シラハマ校舎の運営がうまく回っているのも、そこで培った経験によるところが大きい。「ゼロからのスタートでは、校舎はできなかつた」と朋和氏は話す。そしてもう一つ、シラハマ校舎誕生の鍵となったのが、全国で「無印良品」を展開する良品計画の存在だった。

2014年、無印良品のコンセプトでつくる小屋の開発を進めていた良品計画は、モデル販売に適した場所を探していた。隣市で事業活動を行っていたこともあり、当時の担当者が頻りに白浜周辺を訪れ、朋和氏が切り盛りするカフェに偶然お客として立ち寄ったのだった。「僕に

は土地勘と不動産業の経験があったので、最初はただ土地の情報提供をしていたんです。やり取りをするうちに、実は良品計画の社員の方だと知り、小屋の話を知りました。実はシラハマアパートメントは、建物の耐久性から10年程度の営業と決めていた朋和氏。ある日、廃校となった旧長尾幼稚園・小学校の再利用案公募の件を持ち込んだ同担当者に、こう投げかけられた。「多田さんが手を挙げるなら、われわれはサポートします。思いがけない申し出に「プレッシャーはありませんが、絶対に面白い挑戦になると確信したんです」と朋和氏は二つ返事で応募を承諾。これまで自身が行ってきた事業内容に「無印良品の小屋」を組み入れ、「都心の人が週末に利用できる、クライガルデン(※)のある暮らし」を市に提案したところ見事に採用。ノスタルジーとモダンが融合した、シラハマ校舎が誕生した。

驚くことに、シラハマ校舎は市の公募ながら、自治体からの補助金は一切受けていないそうだ。その分、事業の自由度が高いというメリットもある。文部科学省の発表によると、2002年からの15年間で、全国の7000校以上が廃校になっている。「シラハマ校舎」が一つの成功事例になれば、これをパッケージ化して全国展開していくことも考えています。1割でも構わない、増え続ける廃校を活用できればいい」と語った。

(※) クライガルデン……200年の歴史をもつドイツで盛んな農地の賃借制度。日本語では「小さな庭」。